（別紙3）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1172800516		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム　SAKURA		
所在地	埼玉県入間市小谷田１６５６－１		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1172800516&SCD=320・

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市宮前町２－２４１
訪問調査日	平成22年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特養に併設されたグループホームであるため、特養の協力病院である入間ハート病院（同一グループ法人）の医師及び特養職員である医療スタッフによる全面的な業務協力を受けていることから、医療面での体制が非常に充実していることが、大きな特徴である。また、特養利用者との日常的交流を通じて、利用者の人間関係が幅広く形成できるのもアピールポイントである。具体的には、協力病院の内科、精神科の医師の定期的な回診が実施され、24時間の医療サポートの確保として、昼間はもとより特養の夜間待機看護職員との緊急連絡体制も維持されている。なお、日常的または緊急的な病院受診も特養の生活相談員と看護職員の手により実施されている。また、設備的には施設内に多目的地域交流スペースとしてのコミュニティーホールを有し、地域住民によるサークル活動やボランティア活動の場として定期的利用が図られる中でホーム利用者との交流の場として役立てられている。なお、当グループホームの管理者は、認知症介護研究・研修東京センター認定の認知症介護指導者であり、専門的知識を活かして質の高いサービスの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな入間の丘陵地帯を活かした建物の中にある、特養併設のグループホームである。2ユニットは廊下を挟み左右対称の造りとなっている。廊下やリビングの共有スペースは、入居者の作品が展示、掲示されている。基本的に居室以外のスペースはユニットを問わず自由に出入り出来、入居者が居心地の良い所で自由に過ごしている。ホームの庭は四季折々の花作りや家庭菜園が行われ、毎日庭に出ることを楽しみにしている方も多く、お茶を飲んだり散歩をしたりと、ゆったり時間が流れている。又、施設内のコミュニティホールは、地域住民のサークルやボランティア活動の場として提供され、日常的にホームの方と交流を図れる環境にあり、地域との馴染みの関係が築かれている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には、理念を伝え理解してもらえるようにしている。年度末には事業方針とは別に事業計画（理念を現場に近い形で具体化したもの）の見直し（職員全員が個々に取り組み）、意識付けをしている。	新任研修時に理念について学び、現場においても自分の行動が理念に基づいたものか等について職員間で確認し合っている。職員が他の施設を見学し、理念への取り組みを学ぶことも考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じフロアに地域交流スペースがあり、近隣の方が利用されている。発表会や定期的なボランティアの訪問があり、顔なじみもできている。また、地域の神社に出かけたり、中学生の体験ボランティアなども受けている。	ホームに隣接した地域交流スペースが、地域住民の趣味活動の発表や健康作りの場として利用されている。又、地域の傾聴ボランティアの方とは永年交流があり顔馴染みである。中学生の体験学習等も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとしてではなく、法人内の地域包括支援センターが行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より開催している。近況報告とともに、入所者の事例をあげ、認知症の方を理解していただくべく取り組んでいる。	参加メンバーの協力により、今年度は2ヶ月に1度開催している。会議の目的、構成員、頻度については、「SAKURA通信」でお知らせし、少しづつ理解が深まっていることを実感している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢者福祉課長が委員として参加しており、取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の高齢課職員が運営推進会議のメンバーであり、ホームの取り組みを伝え、相談もしている。市を介して病院・介護施設等の情報を共有し、入居者や家族がサービスを選択出来るような連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議などで勉強会をする時間を設けている。また、危険を防止するための行為が拘束にあたらないかを常に検証している。しかし、玄関の施錠に関しては、建物の構造上やむを得ず行っている。	身体的・精神的な拘束は行わないように、研修や職員の話し合いを通して取り組んでいる。拘束につながる行為が見られた場合は、その都度検証し、改善している。1階玄関の施錠は、防犯上（外部からの無断侵入防止）やむを得ず行っている。	防犯上やむを得なく行っている玄関の施錠について、管理者、職員間で今一度、身体拘束しないケアの理念に基づき検証され、更によい方法の安全面に配慮した取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、フロア会議などの際に勉強会をする時間をもうけている。また、言動が虐待に当たらないかを常に検証しながら、日々のケアにあたっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での勉強会を行っている。成年後見制度などの活用については職員からのアプローチはしていないが、ご家族のご希望に支援することはできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭にて十分な説明を行い、入所者・ご家族に理解を得ていただけるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会を開催したり、面会時に対応している。日頃から何でも言って頂けるような雰囲気を作るように心がけている。入所者の快適な生活についての意見は頂けている。	面会時や家族懇談会の機会に、会話の中で得た家族からの言葉・要望を大切に記録している。 又、家族へ伝達漏れがないよう家族用のウォールポケットを用意し、双方の小さな気づきを交換し合い、その人らしい暮らしにつないでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月２回のユニット会議と不定期に職員面談を設けている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、提案を聞き出せるように問いかけや聞き取りをしている。	職員間の信頼関係があり、悩みをチームで分かち合い、お互いに敬い合う関係を保っている。その他フロア会議、職員面談等での意見や提案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の気付きや努力を評価し、向上心が持てるように努めている。なお、給与等については、今までも毎年度の定期昇給を実施しており、今後も継続するように努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。年4回、法人全体での勉強会をしている。また、管理者は認知症介護指導者であり、日頃の業務内でアドバイスをしたり、書籍の貸し出しなどをして意識、力量の向上に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや訪問などは行えていないが、認知症実践者研修の外部実習施設の指定施設でもあり、同業者との交流をする機会となっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前を含め初期から、必ずご本人及びご家族から、本人の心身の状態や気持ちを聞き、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からご家族が困っていることや、不安なことを十分に聞いている。これまでのご家族の苦労や、経緯を聞き、求めているものを理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入所申し込みの際に、現在の状況を伺い、他の適切なサービス利用についてのアドバイスも含めた対応で相談を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の経験などを活かせるような機会をもつようにすることや会話の中から学ばせて頂いていることなどに職員からの感謝の気持ちを言葉で表し、お互いに支えあっているという気持ちを持つように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会（週1回～3回）や家族面談の際、ご本人の状態の変化や暮らしぶりを伝え、ご家族からご本人へ語りかける話題を積極的に提供し、ご家族が共にご本人を支えている思いを共感できるようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪問された時には、ゆっくり話しができる環境を提供している。ご家族と墓参りに行ったり、入所前から利用している美容院や歯科医院を継続的に利用できるように、ご家族の協力を得ながら支援している。	節分祭への参加や近くの公園に出かけ、地域の方との触れ合いを楽しんでいるが、安全面の不安も抱えている。馴染みのボランティアの方との信頼関係があり、行事には欠かせない存在になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で入所者の性格や相性などを理解し、よりよい関係が継続できるよう、日々の生活の中で共に過ごす機会などを作るようにしている。入所者同士で、居室に招いたり、招かれたりできるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても相談や支援に応じる姿勢を示している。終了後も家族会での取り組みにボランティアとして参加してくださっていたり、挨拶などに来てくださるが、こちらからの積極的なアプローチはしていない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に、聞き出すのではなく、日々の会話の中で何気なく出る言葉、気持ちを見逃さないように把握し、記録することにより、職員間での情報の共有に努め話し合いをして確認し合っている。意向の把握が難しい方についても、表情などから読み取るようにしている。	思いや意向を読み取ることを当然のことと意識し、日々のケアの中から表情や言葉を記録し、職員間が共有している。入居者が「自分で決めた」思いを大切にし、言葉かけを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などに本人、ご家族などから聞くようにしている。デイサービス、ショートステイ、ホームヘルプ利用者などは、当該職員から情報を得ている。面会に来た方にエピソードなどを聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で「できる」ことに目を向け、「できない」と決めつけないようにしている。その時の情報は記録に残して職員間で共有し継続できるようにケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意見などを反映させている。ご本人の視点に立って考えるように努め、その方にとって何が必要であるかを職員全員で会議を行い、意見交換をして作成している。達成状況を記録から評価し、新たに計画を立てている。	一人の職員が2名の個人記録を担当。生活歴やエピソード、日々の関わりの様子等を記録している。その記録も参考に、全体会議で本人の生活を支えるアイディアを出し、わかりやすい介護計画を作成している。又、急変への対応も話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には本人の言葉、様子、周りとの関わりなど、気付いたことは細かく記録し共有している。また、介護計画の見直し時、達成状況など、この記録を元に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊時への対応は柔軟に支援を行っている。また、病院受診時の送迎なども付き添い職員を必ず配置し対応している。訪問歯科医以外又は協力病院以外の日常的受診についてはご家族にお任せしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム独自には行っていないが、法人として、地域のボランティアの定期的な訪問を受けている。また、地域の公民館の文化祭への出展、近隣神社の節分祭への参加も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設利用前からのかかりつけ医を利用されている方もいるが、多くは協力病院をかかりつけとし、定期的に回診してもらっている。通院の際は当法人併設施設の看護職員が同行の上、受診している。	かかりつけ医の受診は、家族同行で継続されている。多くの方は入居時に協力病院をかかりつけ医にとの要望があり、併設施設の看護職員同行で定期受診し、医師の指示は家族へ報告し、家族支援にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の併設施設に勤務する看護師が健康管理をしている。一日に数回見回りや処置を行い、体調、身体状況などの小さな変化も把握し、ご家族への報告、受診相談などをしている。夜間も待機しており、指示を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、早期退院に努めている。ご家族との情報交換も行い、回復状況や退院後の対応についても話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針はできている。 21年度中も重度化した方のご家族との面談を数回に渡り行い、同一法人内の職員と協力し、グループホーム退所後すみやかに老人ホームへの入所の運びとなった。	重度化や終末期に向けた指針を家族へ伝えている。担当医の意見やハード面で安全に暮らし続けることが困難になった場合は、家族と話し合いを重ね、入院・退所となった場合にはその相談と支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、施設内で行われる消防署職員による救命救急講習に全職員が参加し、急変、事故発生時の対応を学ぶ機会が設けられている。また、夜勤時については、マニュアルを整備し周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、職員招集訓練、消火訓練、避難誘導訓練、通報訓練を含む消防総合訓練を年2回行い、全職員が身につけるよう努めている。地域との協力体制については立地場所等の困難性を含めて検討課題として考えている。	消防署協力の下、年2回消防総合訓練を行い、初期初動・避難場所・避難路の確認等を全職員が周知している。消防署との交流が密にあり、連携しやすい関係、PHSを利用し、24時間災害通報出来る体制がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の誇りやプライバシーに配慮し、対応することに努めている。対応に関して、職員間でお互いに日々点検し、ふさわしくない場合はその場で改めていくように努めている。ミーティングなどでの再確認もしている。	業務の中でふさわしくない行動や、言葉かけが見受けられた時には、その場で学ぶ。対人援助の基本を大切にし、質の高いケアを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分が「選ぶこと」の喜びや納得を、感じて頂きたいので生活のあらゆる場面で選択肢を用意するようにしている。入所者の意見や決定を尊重した生活が具体的にできるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調や希望に合わせて日々生活して頂くようにしている。また、いつも皆で過ごすのではなく個々に楽しまれる時間ももてるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、整髪は毎日行っている。ご家族と一緒に美容室に出かけたり、ご家族がカットされたりしている。ご自身で更衣できる方以外の衣類の選択などは職員がしているが、ご本人の意思を尊重して相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜・副菜は法人内の厨房で作られたものを盛り付け、配膳している。炊飯はGHでしているため炊きたてを提供することはできている。食器洗いや片付けなど入所者の力に応じた作業をお願いしている。	職員と一緒に、落ち着いて笑顔で食事をしている。家庭菜園で収穫した芋でおやつ作りを楽しんだり、時には自分で選べる選択メニューもある。今後、日本全国の郷土料理等を取り入れ、食事が楽しめるような工夫をしたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは法人の管理栄養士が立てている。食事量、水分量のチェックを行い、記録に残し、極端に少ない場合には医務、管理栄養士に相談している。水分をあまり摂れない方については、お茶のゼリーなどで補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行っている。夜間は義歯をお預かりして、洗浄および週2回の消毒もしている。口腔状態に変化が見られる場合は早めに訪問歯科もしくは、かかりつけの歯科医院で受診してもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄して頂けるよう一人一人の排泄のパターンを把握してさりげなく誘導している。その際、ご本人の意思も大切にしている。日中、リハビリパンツの使用をやめ、布パンツにした方が増えている。	個別の排泄記録や、日頃のケアの中で排泄パターンを知ること等により、家族の理解と協力で布パンツを使用している。夜間は個人の尿量を基にリハビリパンツを使用しているが、不快感が残らないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最小限の下剤服用で済むように排便チェックを行い、自然排便を目標として乳製品の提供やマッサージなどを行っている。一人一人に合わせた下剤の種類や用量など医師等と相談しながら対応し成果もみられている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ入所者の希望に沿えるようにした結果、2日入っていないとか、便失禁があったからなど、その時々の都合により入っていただくこともある。入りたくなるような環境を整え、本人の意思も大切にしている。	希望する日に午前・午後自由に入浴出来、仲良しで一緒にという希望や、長湯の希望等、出来るだけ意向に沿うようにしている。羞恥心や恐怖心を持つ人には、脱衣所の鏡が見えないよう配慮し、タイミングを計り気分良く入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の生活リズムやその日の状態を理解し本人の意思も大切にしながら、一人一人に合った対応をしている。穏やかに就寝に導けるよう職員とゆっくりできるような時間も持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表は常に見ることができるようにしている。下剤の管理や糖尿の方が低血糖状態にならないための支援などは医務と連携して行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々な場面で一人一人の力が発揮できるように役割等の引き出しと実現に努力をし、それがご本人の負担になっていないか見極めるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や状態に配慮し、年に数回、車を使って喫茶店、外食、ドライブなどに出かけている。日頃から、入所者は自ら庭に出たり、近くの公園などに外出し、気分転換ができるように支援している。また、ご家族と旅行に出かける方もいる。	外出の機会を多く作り、気分転換を図っている。風通しのよい庭でお茶の時間を楽しんだり、公園での花見・バラ園・菖蒲園・小動物との触れ合いもあり、家族との旅行を楽しまれる方もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金は法人でお預かり金として管理している。買い物に行く際、その中から希望額の小銭を引き出し、職員が個々の支払いをすることが多いが、お店の状況をみてご本人に支払ってもらうこともある。なお、数名の方が小銭を自ら管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を個々に合ったオリジナルのものを作成して頂き、ご家族に出している。職員の働きかけで家族に手紙などを出している方もいる。日常的に息子さんに電話をかけている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある音や香りは大切にしている。必要以上に大きな音や強すぎる明かりには配慮している。季節に合わせた飾りつけや、行事の写真などを飾り、気持ちよく安心して頂けるような工夫に取り組んでいる。	リビングの床暖房の程良い暖かさ、間接照明の明かりが落ち着いた雰囲気となっている。2ユニットの往来は自由で、好きな落ち着き場所を探している方もいる。壁面の飾りを眺めたり触れたり、堀炬燵のある和室は共通の暮らしの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラウンジや日当たりの良いスペースや中庭、庭、エレベーターホールなどにそれぞれ椅子やテーブルを置き、リビングと居室以外のくつろげる場所を設けており、思い思いに利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来られた方や、さっぱりした居室にされている方など様々。カーテンもそれぞれの好みのものを用意して頂いたが、消防から防火カーテンにする指導があり、現在は一律のものとなっている。	使い慣れた品物を持ち込んでいる方や、ベットの配置は夜間の排泄時のことを考慮してあり、生活歴や身体状況に合わせて自分で工夫している。居室の掃除を手伝う時は、生き生きと参加する人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が「わかりにくいこと」を見極め、「わかる」工夫をすることで、尋ねなくても「できること」につなげていく工夫をしている。自ら、居室の位置がわかる表示や飾りをつけたり、電気の消し方などの表示をしたりしている。		